



第54期 報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

One vanguard of the digital revolution

「光と電波」情報通信・デジタル家電を支える昭和真空

トップメッセージ

厳しい環境が続く中、
業績は赤字となりました。



代表取締役社長

小俣邦正

Kunimasa Omata

**原価低減、固定費削減に努めましたが、
売上の絶対量を確保するに
至りませんでした。**

当期におけるわが国経済は、東日本大震災および原発事故による混乱から回復の兆しが見られたものの、為替相場は円高が長期化、欧州債務問題の深刻化に端を発する世界経済の景気後退、タイにおける洪水災害による影響などにより、国内企業の業績悪化が懸念されるなど、厳しい状況で推移しました。

当社グループを取り巻く経営環境を見ると、スマートフォンなどの高機能な携帯端末市場や、カーエレクトロニクス関連市場等が、水晶デバイス業界や電子部品業界を下支えしたものの、家電製品やパソコンなど最終製品の価格下落や長期化する円高などの影響により、全体の稼働状況を押し上げるまでには至らず、設備投資に対する動きは慎重なまま推移しました。

こうした環境の中、当社グループは、中国、台湾を中心としたアジア市場を中心に積極的に受注、販売活動を展開してまいりましたが、厳しい状況が続きました。

生産面では、上海子会社における生産比率を高め、原価低減に努めました。

損益面では、引き続き固定費削減を推進しましたが、売上の

絶対量が足りずに固定費をカバーすることができませんでした。また、資産効率改善の一環として、当社の営業所・大野台第二工場および大野台パーツセンターの機能を、本社・相模原工場に集約する方針を固めたことに伴う減損損失10億27百万円の計上、これまで分納対応してきた太陽光発電装置の大口案件に関して客先より納入時期の延期要請を受けたことに伴う仕掛品の評価損計上、さらに、今後の業績推移を鑑み、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果として繰延税金資産の取り崩し等を行いました。

この結果、当期の業績は、受注高56億46百万円（前年同期比39.7%減）、売上高70億86百万円（同23.2%減）となりました。

損益につきましては、経常損失3億89百万円（前年同期は2億25百万円の経常利益）、当期純損失15億39百万円（前年同期は1億80百万円の当期純利益）となりました。

**国内外とも先行き不透明な状況が
続くものの、設備投資への動きが
徐々に回復するものと予想されます。**

今後の見通しにつきましては、世界経済は米国で回復の兆しが見え始め、中国をはじめアジア経済は依然として成長が

トップメッセージ / 製品紹介

期待できるものの、欧州債務問題の根本的な解決には時間を要することが予想され、全体としては先行き不透明な状態が続くものと思われます。

また、国内経済は持ち直しの動きが見られるものの、長期化している円高、個人消費や所得環境については依然として厳しい状況が続き、先行きは不透明です。

当社の周辺環境を見ますと、水晶デバイス業界では、スマートフォンなどの高機能な携帯端末市場やカーエレクトロニクス関連市場が引き続き下支えをし、これまで慎重だった設備投資への動きも徐々に回復してくるものと予想されます。

光学部品業界では、携帯端末搭載用のカメラレンズ等を中心に、順調に推移するものと思われます。同業界の設備投資に対しては、引き続き新型装置を中心に積極的な営業展開を進めてまいります。

電子部品業界では、水晶デバイス業界同様、スマートフォンやカーエレクトロニクス関連市場を中心に需要があり、ユーザーの設備投資は徐々に回復してくるものと予想されます。

誠に遺憾ながら、1株当たり5円の 配当とさせていただきます。

当期は非常に厳しい1年でありました。この厳しい状況の中、当社は、さらなる成長への再投資を可能とするために、営業所・大野台第二工場および大野台パーツセンターの機能を本社・相模原工場に集約することとし、それに伴う固定資産の減損を実施するなどスリム化を推進してまいりました。

当社は、株主様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。業績の伸長度に応じた安定的な経営基盤の確保および財務体質の健全性の維持を勘案しつつ、安定した利益還元を継続的に実施していくことを基本方針としておりますが、厳しい状況を踏まえ、株主様への配当は誠に遺憾ながら1株当たり5円とさせていただきます。

株主、投資家の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

製品紹介

ロードロック式周波数調整装置
SFE-B03



省スペース、高精度、低価格を実現し、本機1台で250万個/月産が可能なモデルです(SMD3.2×2.5、24MHz、H1000ppm/s L50ppm/sの場合)。FL(負荷容量自動演算モード)を搭載。イオンガン本体、コンタクト機構のメンテナンス性が大幅に向上、微小ワークに対応した高精度な機構、2室ロードロック方式採用により処理室は常時真空中に保持され、タクトタイムが真空排気およびリークに依存しない、100mmワイドビーム新型イオンガン搭載、などの特徴をもった装置です。

ロードロック式スパッタリング装置
SPH-2500-II



外形は奥行1200×幅2500×高さ1440で、設置面積はそのままに大幅に低背化を実現。膜厚分布はトレー内±1.2%、トレー間±1.5%を達成、カソードを改良することによりターゲット使用効率が44%まで大幅に向上、ラック&オピニオン方式採用による、ローラーの滑りなどによる搬送不具合の解消、警報発生時のトラブルシューティングの画面表示や各トレーにレシビ設定が可能で、10レイヤー/トレーまで成膜が可能など、操作性が向上した装置です。

超高性能光学薄膜用蒸着装置
SGC-S1300(Sapio1300)



新開発のファイバー式光学モニターの採用や、安定した温度制御が可能な80点モニターガラス機構の搭載により、設計どおりの特性が得られる高精度を実現。徹底した放出ガス対策による安定した膜質、排気系の乱流対策、蒸着源近傍の防汚対策・電子銃のチューニングによる低パーティクルの実現、専用設計した高出力RFイオンソースを搭載することにより、多層光学フィルターから樹脂フィルムまで、幅広く高品質化が可能となるなどの特徴をもった装置です。



光と電波

情報通信・デジタル家電を支える
社会と産業に力強く貢献しています。

キーテクノロジーは
「真空技術」

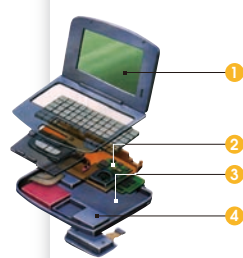
真空技術は携帯電話やデジタルカメラなど、さまざまなハイテク最終商品を作るうえで必要不可欠ですが、真空技術で最終商品を直接製造しているわけではありません。例えば携帯電話には根幹部品として温度補償型水晶発振器(TCXO)が組み込まれていますが、その水晶発振器を作る工程で真空技術応用装置が使用されているのです。他にもカメラのレンズ、さまざまな光学フィルタ、液晶表示パネルなどを製造する際にも真空技術応用装置が使用されています。



その技術は携帯電話からデジタル家電・自動車まで
「こんな身近なところで使われています」

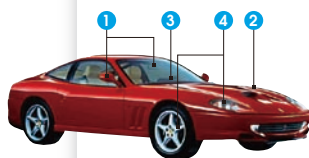
パソコン

- ① 液晶表示板
- ② 水晶デバイス
- ③ 電磁波防止膜
- ④ ファイル装置の光ピックアップ
(CD-R/RWなど)



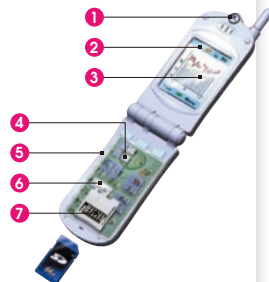
自動車

- ① 光学薄膜による高性能化
 - 自動防眩ルームミラー(ルームミラー)
 - レインクリアリングミラー(ドアミラー)
- ② 水晶デバイスによる高精度電子制御
 - エンジン制御
 - トランスミッション制御
 - サスペンション制御
 - ステアリング制御
 - ABS制御
 - 定速走行制御
 - 4WS制御
 - カーエアコン制御
 - 電子式メーター制御
 - エアバッグ制御
- ③ 水晶デバイスによる情報・通信機能
 - 自動車電話
 - マルチインフォメーションシステム(TV, CD, MD, DVD)
 - カーナビゲーション(GPS)
 - ITS関連(VICS, ETC)
- ④ 薄膜加工による装飾・高性能化
 - アルミホイール
 - ヘッドライトの反射鏡



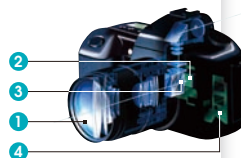
携帯電話

- ① デジタルカメラレンズ
- ② 反射防止膜
- ③ 液晶表示板
- ④ SAWフィルタ
- ⑤ 電磁波防止膜
- ⑥ 水晶デバイス
- ⑦ Bluetoothユニット



デジタルカメラ

- ① 交換レンズに反射防止膜
- ② ローパスフィルタ
- ③ プリズムにミラー膜・反射防止膜
- ④ 水晶デバイス



光ピックアップ

(CD・DVD・BDプレーヤーなどの駆動装置に内蔵)

- ① 対物レンズに反射防止膜
- ② プリズムにミラー膜・反射防止膜
- ③ ビームスプリッターに反射防止膜やミラー膜
- ④ シリンドリカルレンズに反射防止膜



**顧客企業の生産拠点のグローバル化、
特に中国を中心としたアジア地域への生産拠点移転が進んでおります。
これらに対応するために当社グループでは中国に子会社2社を有し、
製造、販売およびサービスの体制を充実させております。**



昭和真空機械(上海)有限公司

当社の完全子会社として、平成14年(2002年)8月に設立。生産分担会社として、中国でメード・イン・チャイナの真空技術応用装置(真空中で特定の基板に薄膜を形成させる真空蒸着装置やスパッタリング装置)を生産しています。

昭和真空機械貿易(上海)有限公司

当社の完全子会社として、平成15年(2003年)8月に設立。中国を中心としたアジア地域において、主に真空技術応用装置の構成部品、付属品、保守部品等の販売や修理、メンテナンスなどのサービスを提供しています。

今後、上海子会社
2社の役割は
ますます
大きくなります

上海2社の生産、販売およびサービスの機能を強化させていきます。海外に生産拠点を移した顧客企業に対する、迅速できめ細かなサービスの提供や、コスト削減への貢献に加え、当社の一分担会社という立場から脱皮し、それぞれが独自性を発揮し、利益を生み出すことのできる企業として成長し、当社グループの中で、生産、販売およびサービスの中心的役割を果たしていきます。当社は、技術開発や商品開発機能を強化し、新型・高難度の装置生産を実施するとともに、子会社をバックアップしていきます。

昭和真空機械(上海)有限公司

工場稼働当初は、水晶デバイス向けの真空アニール装置の生産が主でしたが、現在では周波数調整装置やスパッタリング装置など、生産機種を着実に増やしてきました。また、光学向け装置の生産も手がけるまでになってきています。

今後は、生産機種を増やしていくとともに、海外工場のニーズに応えるべく、設計から同社が手掛け、主要部品も現地で調達した品質、価格面で競争力のある、真のメード・イン・チャイナ製品を投入していきます。

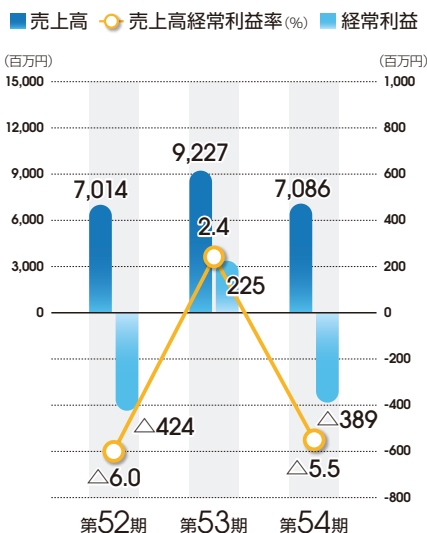
昭和真空機械貿易(上海)有限公司

中国を中心としたアジア地域での拡販を実施していきます。保守メンテナンス部品の販売に加えて、当社と昭和真空機械(上海)有限公司で生産した装置の販売を手がけていくとともに、中国やアジア各国での据付業務を実施していきます。また、現地工場の需要の取り込みや掘り起こしを行い、両社で連携して商品開発等につなげていきます。

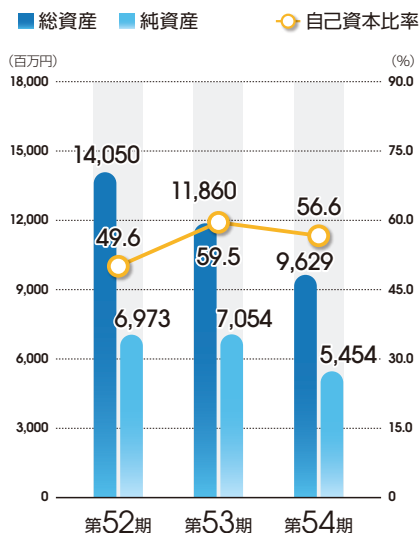
連結財務ハイライト

引き続き固定費の削減に努めたものの、売上高の絶対量が足りず、赤字となりました。

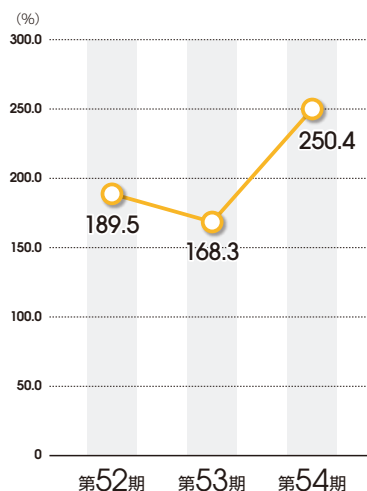
売上高・経常利益・売上高経常利益率



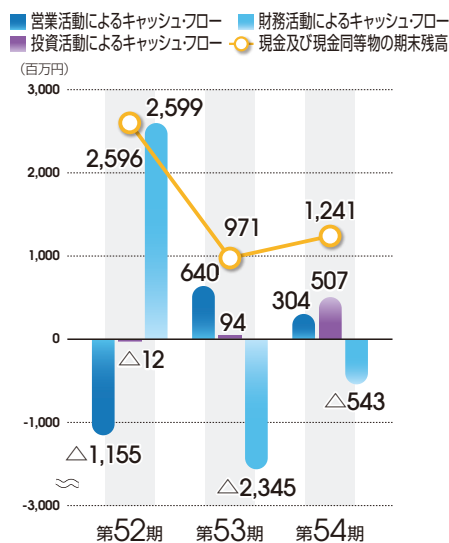
総資産・純資産・自己資本比率



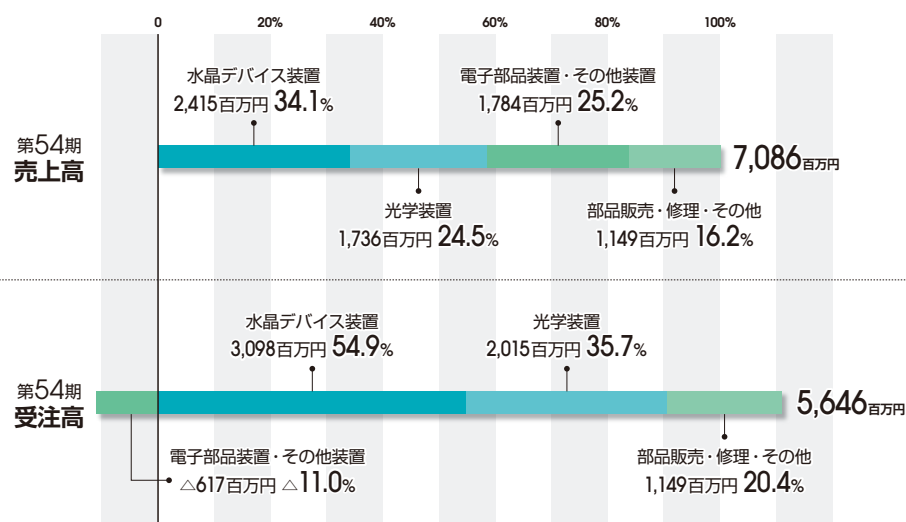
流動比率



キャッシュ・フロー



品目別売上高構成比／品目別受注高構成比



売上高／経常損益

売上高は、前年同期比23.2%減の70億86百万円、経常損益は、前年同期2億25百万円の利益から3億89百万円の損失となりました。

総資産／純資産

総資産は、前年同期比22億31百万円減少し、96億29百万円となりました。純資産は、利益剰余金の減少等により、同15億99百万円減少し、54億54百万円となりました。

キャッシュ・フロー

現金及び現金同等物の期末残高は、営業活動の結果獲得した資金は減少したものの、固定資産の売却などによる投資活動による収入があり、また財務活動による資金支出も減少したことなどにより、前年同期比2億69百万円増加し、12億41百万円となりました。

財務に関する詳しい情報は

<http://www.showashinku.co.jp/ir/> をご参照ください。

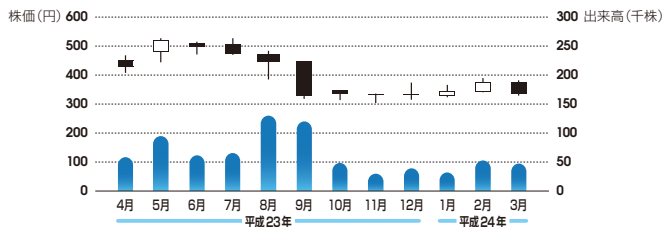
株式・会社情報 (平成24年3月31日現在)

株式の状況

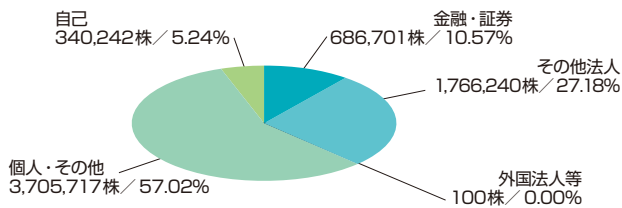
発行可能株式総数	13,800,000株
発行済株式の総数	6,499,000株
株主数	2,709名

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社アルバック	1,329,500	21.59
小侯邦正	567,600	9.21
有限会社小侯興産	381,440	6.19
株式会社昭和真空	340,242	—
昭和真空従業員持株会	286,452	4.65
株式会社三菱東京UFJ銀行	240,000	3.89
日本生命保険相互会社	144,000	2.33
小侯佳子	120,000	1.94
小侯輝明	120,000	1.94
小侯みつこ	120,000	1.94
株式会社みずほ銀行	96,000	1.55
株式会社横浜銀行	96,000	1.55

株価および売買高の推移(月次)



所有者別株式状況(株式数)



株主メモ

株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同送付先・連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
基準日	3月31日 その他必要がある時は、取締役会の決議をもって予め 公告いたします。
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当金の支払を行う時は9月30日
公告掲載方法	電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告に よることができない場合は日本経済新聞に掲載する。 URL http://www.showashinku.co.jp/

IRカレンダー 第55期 (平成24年4月～平成25年3月)

5月	第54期 決算発表・決算説明会	11月	第55期 第2四半期決算発表・ 決算説明会
6月	第54回 定時株主総会 経営報告会 有価証券報告書提出	2月	第55期 第3四半期決算発表
8月	第55期 第1四半期決算発表	3月	31日 第55期 決算日

会社の概要

商号	株式会社昭和真空
設立	1958年(昭和33年)
資本金	2,177,105,200円
従業員数	193名
営業種目	水晶デバイス用、光学薄膜用、電子デバイス用などの 総合的な真空関連装置並びに真空機器等 真空蒸着装置、スパッタリング装置、イオンエッチング装置、 イオンプレーティング装置、ドライエッチング・アッシング装 置、真空冶金(溶解・熱処理、焼結、脱ガス)装置、光学薄膜 用モニター(多色式、単色式)、IAD冷陰極イオンソース、 液晶注入装置、有機EL用蒸着装置、その他
取引金融機関	三菱東京UFJ銀行、横浜銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、 八千代銀行、山梨中央銀行、城南信用金庫

事業所

本社・相模原工場
〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名3062番地10
TEL. 042-764-0321 / FAX. 042-764-0329

大野台パーツセンター
〒252-0331 神奈川県相模原市南区大野台二丁目27番2号

役員 (平成24年6月26日現在)

代表取締役社長	小侯 邦正	取締役	山元 正年
執行役員	坂地 藤五郎	監査役	村岡 眞史
専務取締役執行役員	市川 正	監査役	千葉 睿一
取締役執行役員	高橋 理	監査役	中村 孝男
取締役執行役員	久島 博美		
取締役執行役員	田中 彰一		

グループ会社および関係会社

[グループ会社]

- 昭和真空機械(上海)有限公司
 - 所在 中国上海市
 - 主な事業内容 当社装置の生産
- 昭和真空機械貿易(上海)有限公司
 - 所在 中国上海市
 - 主な事業内容 中国における当社装置の
サービス・メンテナンス
- 株式会社エフ・イー・シー
 - 所在 埼玉県狭山市
 - 主な事業内容 マグトラン(歯のない歯車)の製造・販売

[関係会社]

- Sansei-Showa Co., Ltd. USA
 - 所在 米国オハイオ州



ホームページのご紹介

トップページ

<http://www.showashinku.co.jp/>

ホームページでさまざまな情報をご覧いただけます。

「株主・投資家の皆様へ」トップページ

<http://www.showashinku.co.jp/ir/>

株主の皆様へ有益なIR情報はこちらをご覧ください。



ULVACGROUP

株式会社 昭和真空

本社・相模原工場

〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名3062-10
TEL. 042-764-0321 FAX. 042-764-0329
URL <http://www.showashinku.co.jp/>

(証券コード: 6384)